

2017年(平成29年)

1月27日(金曜日)

毎週(金) 14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

1/12~1/18のNYMEX・WTIは、1月からの主要産油国の協調減産実施に対する様々な観測で一進一退が続く中、51.08~53.01ドルの範囲で推移した。

1月19日は、国際エネルギー機関(IEA)の月報が12月のOPEC減産と1月初めの出荷実績から見た減産見通しを報じたことから反発したが、米国エネルギー情報局(EIA)の米国在庫報告が原油(前週比230万バレル増)・ガソリン(前週比500万バレル増)ともに予想を上回ったことで上げ幅は削られた。2月限の終値は前日比0.29ドル高の51.37ドルだった。

週末20日は、サウジのファリハ・エネルギー相の年初からの減産量が既に150万バレルに達している旨の発言を受け続伸したが、この日のベーカーヒューズ社発表の米国内の石油掘削リグ稼働数が551基(前週比29基増、2013年4月以来の増加数)と大幅増加したことが、上値を抑えた形となった。2月限の終値は前日比1.05ドル高の52.42ドルだった。

週明け23日は、22日の主要産油国による閣僚級監視委員会1月からの協調減産の実施状況について削減目標の180万バレルのうち150万バレルの削減が確認されたものの、米国内の原油増産の動きにより、3営業日振りに反落した。この日から中心限月となった3月限の終値は前日比0.47ドル安の52.75ドルだった。

24日は、産油国監視委員会の結果が再認識されたほか、ドル安が原油の割安感をもたらし反発した。3月限の終値は前日比0.43ドル高の53.18ドルだった。

25日は、米エネルギー情報局(EIA)の週間統計で、在庫が増加したことから一旦弱含んだが、その後OPECの減産順守への期待などからやや持ち直した。3月限は前日比0.43ド

ル安の52.75ドルで終了した。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(3月渡し)は、前週53.20~54.20ドルと一段と堅調に推移した。19日は51.50ドル、20日は52.60ドル、23日は53.60ドル、24日は53.80ドル、25日は53.60ドルで推移した。

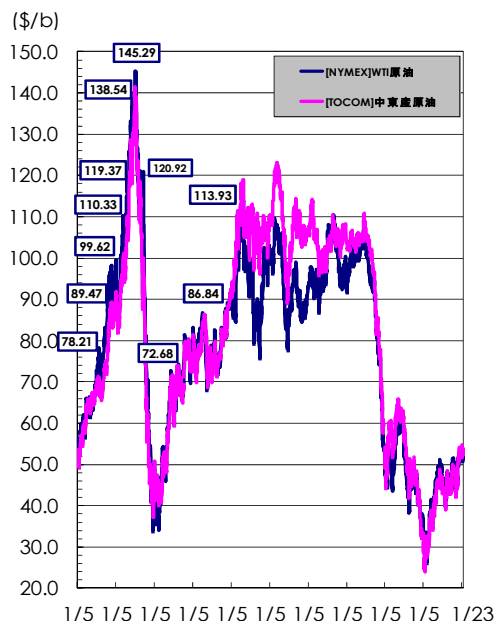
為替は、前週112.83~115.25円と円高方向に推移した。19日は114.92円、20日は115.15円、23日は113.96円、24日は112.78円、25日は113.74円で推移した。

財務省が25日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、12月下旬の原油輸入平均CIF価格は、前旬比668円上げの33,385円/kl。ドル建てでは45.97ドルで前旬比0.03ドル高。為替レートは1ドル/115.46円。また、同日発表の貿易統計速報(月間ベース)によると、12月の原油輸入平均CIF価格は、前月比772円上げの33,184円/kl。ドル建てでは46.67ドルで前旬比2.41ドル安。為替レートは1ドル/113.04円。

主要元売会社の1月第5週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きから2.5円の値下げに分かれた。原油価格はやや値下がりし、為替レートは円高だったため、原油調達コストは値下がりした。

そのような中で、1月23日時点の小売価格は、ガソリンが0.2円値上がりの131.1円、軽油が0.3円値上がりの110.5円、灯油は0.4円値上がりの78.1円だった。ガソリンは7週連続の値上がり、軽油も7週連続の値上がり、灯油は14週連続の値上がり。この週(1月第4週)の原油コストは値下がりし、元売の卸価格は据え置きと1.0円の値下げに分かれた。

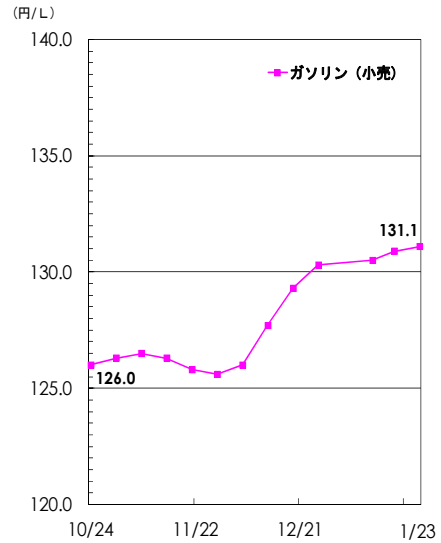
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	1/15 ~ 1/21	3,909 ▼ -84	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	92.7 ▼ -2.0	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	1/21	12,932 ▼ -752	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	1/23	53.59 ▲ 0.17	▲ 21.2
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	1/23	52.75 ▲ 0.27	▲ 22.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	12月下旬	45.97 ▲ 0.03	▲ 2.45
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	33,385 ▲ 668	▼ -197
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	115.46 ▼ -2.23	▲ 7.21
	外国為替TTSレート (¥/\$)	1/23	114.96 ▲ 0.37	▲ 4.67



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	1/15 ~ 1/21	1,005 ▼ -42 ▲ -	
	輸入	"	n.a. n.a. n.a.	
	出荷	"	981 ▲ 156 ▼ -	
	輸出	"	60 ▼ -30 ▼ -	
	在庫	1/21	1,832 ▼ -36 ▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/17 ~ 1/23	48.3 ▼ -1.7 ▲ 17.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/17 ~ 1/23	49.2 ▼ -0.9 ▲ 17.5
		(TOCOM/中部)	1/23	50.1 → 0.0 ▲ 15.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/23	131.1 ▲ 0.2 ▲ 15.9	

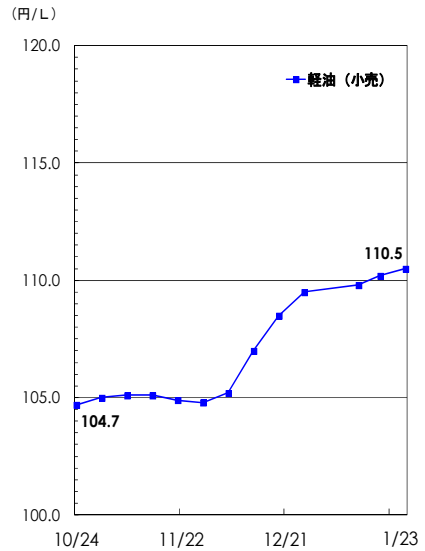
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

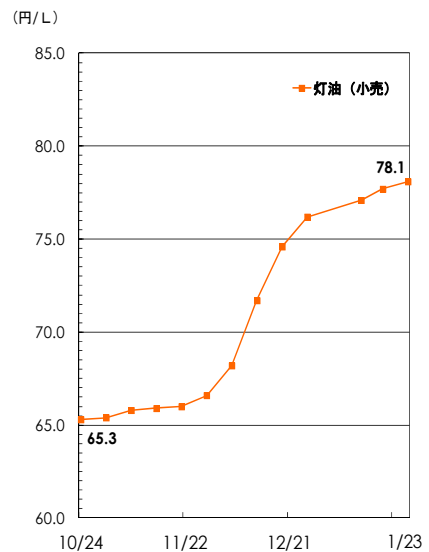
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	1/15 ~ 1/21	833 ▲ 52 ▲ -	
	輸入	"	n.a. n.a. n.a.	
	出荷	"	691 ▲ 159 ▲ -	
	輸出	"	303 ▲ 78 ▲ -	
	在庫	1/21	1,711 ▼ -161 ▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/17 ~ 1/23	49.8 ▼ -1.1 ▲ 13.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/17 ~ 1/23	46.0 → 0.0 ▲ 10.5
		(TOCOM/中部)	1/23	- - -
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/23	110.5 ▲ 0.3 ▲ 10.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	1/15 ~ 1/21	512 ▼ -15 ▼ -	
	輸入	"	n.a. n.a. n.a.	
	出荷	"	615 ▲ 34 ▼ -	
	輸出	"	50 ▲ 35 ▲ -	
	在庫	1/21	2,004 ▼ -154 ▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/17 ~ 1/23	53.1 ▼ -1.9 ▲ 23.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/17 ~ 1/23	51.0 ▼ -0.6 ▲ 21.0
		(TOCOM/中部)	1/23	49.5 ▼ -3.0 ▲ 19.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/23	78.1 ▲ 0.4 ▲ 15.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

1月25日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)が公表した週間石油統計が、原油在庫(280万バレル増)をはじめ軒並み増加したことから値下がりました。しかしその後、OPEC/非OPECの協調減産への期待から、一時は前日終値を上回る53.47ドルを記録したものの、3月限の終値は前日比0.43安の52.75ドル、4月限の終値は前日比0.47ドル安の53.39ドルだった。

EIAによると、1月23日時点のガソリンの小売価格は前週比3.2セント値下がり(1ガロン2.326ドル(70.6円/バレル))となった。ディーゼルは前週比1.6セント値下がり(2.569ドル

(77.9円/バレル)。ガソリン、ディーゼル共に2週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、1月15日～21日に休止したトッパー能力は8.6万バレル/日と前週に比べて2.9万バレル増加。(全処理能力は379.0万バレル/日)。

原油処理量は390.9万klと、前週に比べ8.4万kl減少。前年に対しては4.7万klの増加。トッパー稼働率は92.7%と前週に対して2.0ポイントの減少、前年に対しては4.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/4.0%減、ジェット/18.2%減、灯油/2.8%減、軽油/6.6%増、A重油/27.8%増、C重油/6.6%増。今週のC重油の輸入は2.3万kl(前週比6.5万kl減)。軽油の輸出は30.3万kl(前週比7.8万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではC重油のみが減少し、その他の油種で増加した。前年比ではガソリン、灯油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。原油価格は値下がりに転じたが、小売価格は7週連続で値上がりとなる中、ガソリンの出荷は98.1万kl(対前週18.8%増)と2週連続で前週比で増加、3週連続で前年比で減少となり、3週連続で100万klを下回った。

ジェット14.1万kl(対前週163.6%増)、灯油61.5万kl(対前週5.9%増)、軽油69.1万kl(対前週29.9%増)、A重油

33.6万kl(対前週25.2%増)、C重油28.2万kl(対前週1.0%減)。

(単位:千KL)

	今週 (1/15 ~ 1/21)	前週 (1/8 ~ 1/14)	前週比
ガソリン	981	825	▲ 156 (19%)
ジェット燃料	141	53	▲ 88 (166%)
灯油	615	581	▲ 34 (6%)
軽油	691	532	▲ 159 (30%)
A重油	336	268	▲ 68 (25%)
C重油	282	285	▼ -3 (-1%)
合計	3,046	2,544	▲ 502 (20%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

1月21日時点の在庫は全油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリンのみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは183.2万kl、前週差3.6万kl減。前年に対しては14.3万kl多い。

灯油は200.4万kl、前週差15.4万kl減。前年に対しては17.9万kl少ない。

軽油は171.1万kl、前週差16.1万kl減。前年に対しては17.4万kl少ない。

A重油は76.9万kl、前週差3.0万kl減。前年に対しては3.6万kl少ない。

C重油は199.8万kl、前週差4.9万kl減。前年に対しては25.2万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (1/21)	前週 (1/14)	前週比
ガソリン	1,832	1,868	▼ -36 (-2%)
ジェット燃料	931	1,005	▼ -74 (-7%)
灯油	2,004	2,158	▼ -154 (-7%)
軽油	1,711	1,872	▼ -161 (-9%)
A重油	769	799	▼ -30 (-4%)
C重油	1,998	2,047	▼ -49 (-2%)
合計	9,245	9,749	▼ -504 (-5.2%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

1月17日から1月23日までの原油コストは、原油価格は値下がり、為替レートは円高で、原油コストは2週連続値下がりで見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン101～102円台、軽油49～50円台、灯油52～53円台で値下がりを続けた。海上スポット価格は、ガソリン100～101円台、軽油49円台、灯油51～52円台、先物価格はガソリン102～103円台、軽油46円台、灯油49～51円台で、横ばいから値下がりである。元売の卸価格は据え置きから2.5円の値下がりだった。

東燃ゼネラルは1月26日、28日以降の外販スポット価格を、1月中は全油種を据え置き、2月1日以降はガソリンと軽油を2.0円、重油を1.0円値上げし、灯油を据え置く旨通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストが値下がりしたこと、製品スポット市況も軟調に推移した。週間のガソリン販売量は先週までよりはやや持ち直したものの、90万kl台だった。

1月第5週(1月26日～2月1日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(1月17日～1月23日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.7円、灯油は1.9円、軽油は1.1円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが2.4円、灯油は1.6円、軽油は1.2円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが0.9円、灯油が0.6円の値下がり、軽油が横ばいだった。原油価格は値下がり、為替は円高で、原油コストは値下がりとなり、製品スポット価格も軟調に推移した。

1月第5週の大手元売の卸価格は、据え置きから2.5円の値下がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]	今週 (1/17 ~ 1/23)	前週 (1/10 ~ 1/16)	前週比	
レギュラー	48.3	50.0	▼	-1.7
灯油	53.1	55.0	▼	-1.9
軽油	49.8	50.9	▼	-1.1

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]	今週 (1/17 ~ 1/23)	前週 (1/10 ~ 1/16)	前週比	
レギュラー	49.2	50.1	▼	-0.9
灯油	51.0	51.6	▼	-0.6
軽油	46.0	46.0	➡	0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (1/17～1/23実績値)		(単位: 円/%)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -1.7	▼ -0.9	▼ -1.3
灯油	▼ -1.9	▼ -0.6	▼ -1.2
軽油	▼ -1.1	➡ 0.0	▼ -0.6
A重油	➡ 0.0		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バーージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

1月23日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円値上がりの131.1円、軽油が前週比0.3円値上がりの110.5円、灯油は前週比0.4円値上がりの78.1円だった。ガソリンは7週連続の値上がり、軽油も7週連続の値上がり、灯油は14週連続の値上がりとなった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは24道府県、横ばいは12都県、値下がり11県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県の126.8円(前週比横ばい)、次が茨城県・千葉県・徳島県の127.4円だった。最高値は長崎県の139.0円(同0.1円高)だった。都道府県別で、最

も値上がりしたのは前週比2.4円高の滋賀県(133.4円)、値下がり県は0.8円安の徳島県(127.4円)、横ばいが東京都(133.0円)ほか11県だった。

原油コストは値下がりしたが、7週連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週の元売会社の卸価格は据え置きから1.0円の値下げに分かれた。原油価格はやや値下がり、為替レートも円高で、原油コストは値下がりしたこと、次週(1月23日)のガソリン・灯油の小売価格は小幅な値下がり予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)		
	今週 (1/23)	前週 (1/16)	前週比	直近高値
レギュラー	131.1	130.9	▲ 0.2	08/8/4 185.1
灯油	78.1	77.7	▲ 0.4	08/8/11 132.1
軽油	110.5	110.2	▲ 0.3	08/8/4 167.4

小売価格

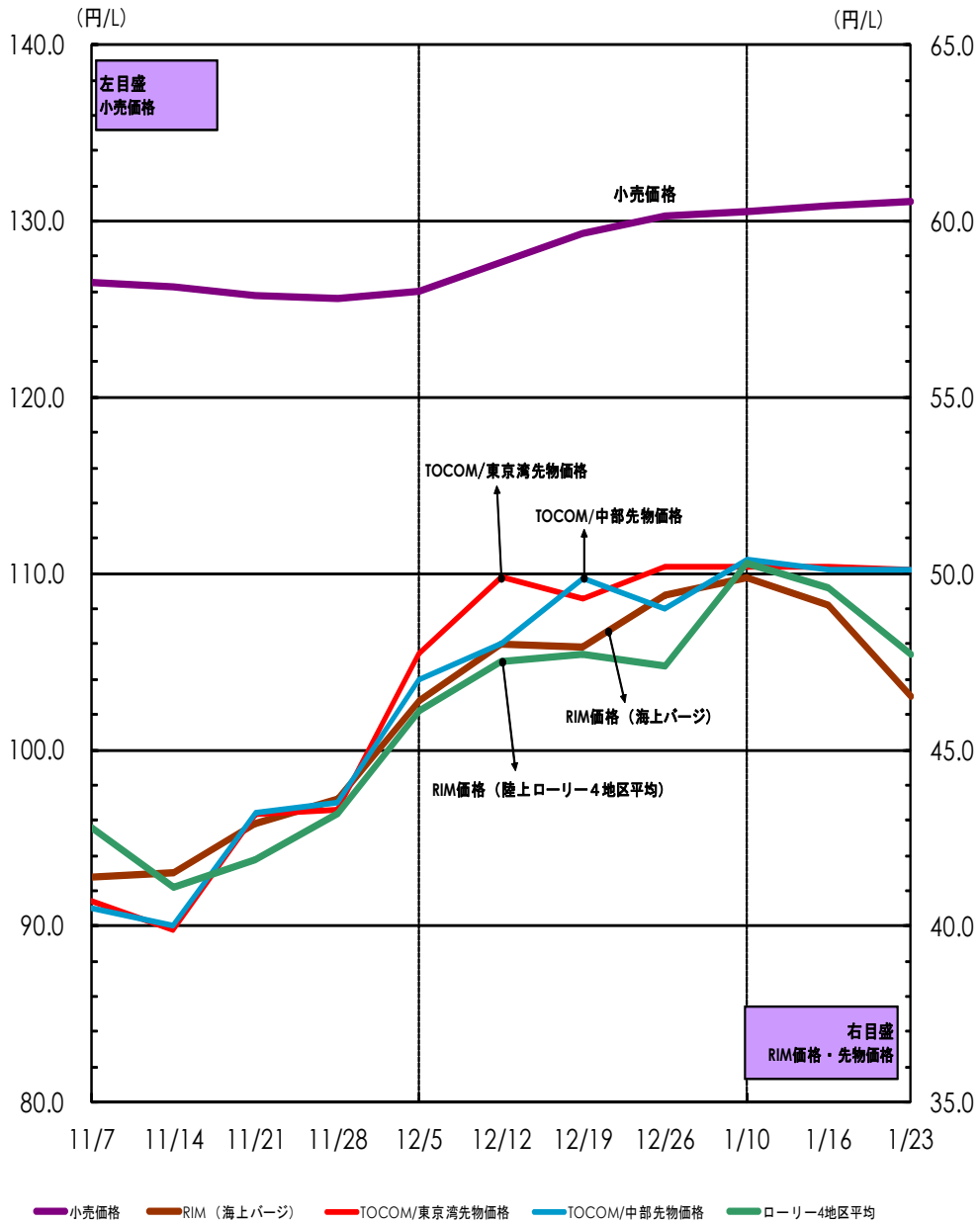
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/11/7 ~ 2017/1/23)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第42号)の公表は、2/3(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年3月末現在)は、8月3日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。